

Catalogue No.

20153-6



モノを創ることは、自分を刻むこと。  
 カタチに意匠を与え、新たな価値を創造する。

## 人の暮らしを見つめ、価値ある暮らしを創りだす。

用美：暮らし十職は、先生が率いる職人集団ですが、どんな発想から生まれたのですか？

前田：茶の湯の文化が開いた千利休の時代から、千家の家元には、釜だったらこの人、茶碗だったらこの人というような、出入りの職人が数名いたそうです。明治時代に入ると彼らは、千家十職と呼ばれるようになりました。おこがましい話ですが少々それにかけて、暮らし十職と呼んでみたのです。現代は、買えばモノが手に入る時代です。目の前の商品から好みを選んで買い求める。近年では住まいまで、選ぶものになってしまいました。しかし、作ることは未知の可能性があり。それはカタチを生みだすこと。思いをぶつける果てに、初めて現れてくるものです。それがモノを「作る」ことであり、「自分を刻む」ことなのです。その思いを受け止め、カタチに意匠を与えて新たな価値を創造するのが私たちの仕事です。人の暮らしを見つめ、価値ある「暮らしを作りだす」。それが私たち「暮らし十職」の願いです。